

御作中の飛鳥は常に姿勢単一に見ゆまは
マダ素人眼の届かぬ故に口同し幹部にて
も他先生の飛鳥には變化あり

此頃のお小言

近藤 靜遊

店にばかり居すと折々運動のため散策に出
よと勧められても、田舎は同じような處ば
かり故出ても飽きがきて直に歸る、亦出る
戻る、格別保養にもならぬのである、
或日不斗水彩畫の葉を購讀して早速入用の
道具を買求め、試に寫生に出たが素より經
験がない故描けそうな筈はなけれど、面白
いので其後度々行くと同じ處も景色は刻々
變化する事に氣がつき外出は益々愉快にな
つて、胃病や惱病は跡方もなく全快した、
外へばかり出ずと内にも居て貰はれば店が
差聞へるとは、此頃のお叱言である。

僕の水彩畫の器具

S I 生

大家の肉筆の水彩畫は見た事はなし、ワッ
トマン一枚得られない田舎に居る僕には水
彩畫の器具を一々買ふ事が出来ない、繪の
具、筆、鉛筆等の外は悉く自分で製らへた

のばかりを用ひて居る、けれども葉書大や
十六切位の一寸したスケッチは充分に間に
合ふ、畫架や三脚床几や、欲するが儘に得
られる都の坊ちやま達には珍らしいだらう
と思うから參考の爲に御目に否御耳に入れ
ませうか、先づ僕の畫架は長さ四尺、直經
六七分位の竹三本の上部を針金で開閉の出
來る様にくくり、二本へは畫板を載せる爲
に四つか五つの穴を双方へあけて、竹製の
釘の様な畫板止めをさし、欲する處に従つ
て畫板を四段か五段か上下の出來る様にし
た、携帶には少々不便であるが製法の簡單
なのを主としたからである、三脚床几は木
ならばよいが成べく手製で製法の容易なの
と思つたから、みづゑ第九號に出て居た靜
遠君の示されたのを竹でやつた、長さ二尺
の竹三本を釘で止め猶、念の爲、紐でく
つた、上は白布で張つた、但し之れ丈は女
の手を借りた、畫板は柵にしてあつた不用
の奴を削つて横へ棧迄も打ち付けた、大き
さは一尺に一尺三寸、鉋が悪いので見た處
はいかにも立派でないが、それでも畫用紙
の四ツ切位の水貼りが出来る、見取定規は

菓子箱の切れを仕事に來て居た大工に削つ
て貰つて製らへた、筆洗は直徑一寸六分、
深さ一寸八分の竹の筒で皮の方を削つて繪
の具箱に取付けられる様な柄を製へ、木兎
てみがいた、此れには一寸苦心して半日も
かゝつた、水筒は一合餘り入る硝子瓶で間
に合はせ、海綿は暴風雨の際濱へ波の爲め
に打ち上げられたのを拾つて置いたのが、
浪にもまれて柔かく氣麗なので此れを使ふ
事にした、畫囊はないから風呂敷包にして
行く、畫架と三脚とは一處にくりつて、然
し追て畫囊も製へるつもり、器具は實に不
完全だが其れでも大方は自分で製らへた
ものだから嬉しい、之れを持って青葉の蔭
へ畫架を据え、そよ吹く涼しい風に吹かれ
て筆を走らせて居ると梢に鳴いて居る蟬の
聲迄が何時もの暑くろしい眠い調子とは違
つて勇ましい愉快な涼しい様な氣持がす
る。

會員徽章は出來たら知らせますから御催促
御無用に願ひます